

1 新人戦と網走南ヶ丘高校

2001年、9月21日から道高校新人戦が、茨戸漕艇場で開催された(道選手権と併催)。役員は全員、参加校の引率教諭等で占められ、網走南ヶ丘高は、E先生ら2名が引率、8艇・18名がエントリーした(棄権予定含む)。E先生は、大学で漕歴があり、公認B級コーチ資格も持っていた。

Aさんは1年生、入部後の腰痛で乗艇回数は他の部員より少なかった。選手としては新人戦が初めてだった。水泳経験があり泳ぐことができた。兄も大学のボート選手だった。

2 新人戦と茨戸漕艇場、気象の背景

北海道では、秋から冬に北西の季節風が吹き、秋の寒冷前線通過時には、突風が吹く傾向がある。特に石狩平野は、石狩湾両側の山地に挟まれる地形で風が収束、強い北西風となる傾向がある。さらにコースの150~300m付近の通称「津軽海峡」は、川幅が広がり、岸に樹木や建築物がなく、北西風で吹走距離が長いと、波が高くなるエリアだった。その津軽海峡南東水域が、待機・練習場所とされた。両先生とも、津軽海峡付近が波のたちやすいことを十分認識していた。



3 気象情報、開会式～監督主将会議～要員配置

前日の夕刊にはすでに寒冷前線の通過と強風、天気崩れの予想、当日朝刊にも同様の悪天候の予想が載った。E先生らは二人とも、朝のTVでそれを確認していた。

漕艇場では、朝から北西の風、雨が降ったり止んだりした。事故の高校ボート部は、21日午前中に到着、準備の後、ミーティングでスケジュール、体調、風や波の状況を確認、E先生は部員に入念なウォームアップを指示した。13:00-28に開会式、「寒冷前線の通過に伴い気象が不安定だから注意するように」との説明があった。13:10、気象台は「これから今夜にかけて雷の発生する恐れ。突風や落雷に注意」と、石狩中部(コースのある地域)にも、「雷・強風注意報」を発表した。当日の札幌の最高気温は17.0℃、最低8.9℃だった。

高校女子2×が、新人戦での待機中、突風により転覆し、1名が溺れ、行方不明になった。

続いて監督主将会議が行われ、審判長が、「気温が低いのでジャージを下に着てもよい」と述べ、いつもより入念に注意があった。運営側で実施可否は問題にならなかったが、参加高の一部は、また(風ではなく)土砂降りの雨の中のレース実施を懸念し棄権も考えていた。

14:15、要員配置が完了。その頃、寒冷前線通過に伴う北西風が吹き、時々強く雨も降った。救助艇は、大会本部前600m付近に配置、O高の先生が運転要員として陸上待機した。

4 第1レース～第2レース

E先生らは2名とも競技中、研修センター前の発艇場で、離着岸を(自発的に)支援していた。14:30と14:45に男子1×の予選がスタートした。横風はあるがレースに支障は無い程度だった。第2レースのクルーが津軽海峡を通過した後白波が立ち始め、近くにいたJ先生は津軽海峡内の女子1×(2艇)に「次のレースの後、戻ってこい」と大声で指示した。

第3レースのスタートの頃、0~300m水域に、計10艇がいた。Aさんの2×(救命具搭載)も、待機・練習水域に到着していた。第3レース(男子1×)は少し遅れ14:54頃スタートした。この頃、北西風が急に強まった。津軽海峡には白波が立ち、艇は大きな水飛沫を上げ、強い横風でレーン外に押し出されそうになった艇もあった。審判長は、「各クルー、4レーン側に寄せ、レーンを外れて良いから風上へ、岸の方へ。」と拡声器と白旗で指示した。各艇は指示に従い波の少ないほうに移動した。第3レースの通過を待って、先述の女子1×(2艇)は、ステイクポートに向かったり、岸に戻ったりできた。

5 事故の発生

Aさんの乗る2×の「転覆」は目撃されなかった。岸に戻ってきた先の女子1×が「あっ、沈んだ」と気づいた。R先生が救助艇O先生の携帯にかけたが出なかった。R先生は、2×が水面を「回転しながら」東茨戸側へ飛ばされていくのを見た。

J先生は、スタート地点で「沈！」の声を聴き、自転車で救助艇に向かったが、その際、沖で転覆艇の転がるのを目撃した。

気象台(札幌市)では当時、平均風速3.1~7.6m/s・北北西~西北西の風を観測、石狩地域気象観測所(石狩市生振)では、15時に平均9m/sの西北西の風を観測した。(注:ガストファクターを3とすれば、20m/s以上の突風が吹いた可能性があり、目撃証言から、ダウンバーストの可能性もある。)

津軽海峡奥の浅瀬で、遭難艇のバウ選手が立って救助を求め、到着した審判艇が引き上げた。中島の岸に吹き寄せられていた女子1×も救助。その後、何分かAさんの捜索が続けられたが発見できず、15:12に大会本部から警察に通報、すぐにレースは中止された。

消防と警察が15:28頃から潜水捜索したが発見できず、19時に捜索は中断、翌朝5:30に捜索再開、ボート関係者も参加(晴れ、無風)。12:05頃、津軽海峡中島寄り水深2.5mの水底で、ダイバーがAさんを発見、溺死と確認された。

事故後、遺族から訴訟、札幌高裁は、05年末に引率教師2名の過失を認め、道に約3500万円の支払いを命じた。